

既存化学物質の分解性及び蓄積性に関する情報

(平成21年10月23日開催)

官報公示 整理番号	CAS No.	物質名称	頁
2-176 2-185	21542-96-1	<i>N, N</i> -ジメチルドコサン-1-イルアミン	1
3-2378	37609-25-9	シクロヘキサデカ-5-エン-1-オン	8
4-218	4162-45-2	2, 2-ビス{3, 5-ジブromo-4-(2-ヒドロキシエトキシ)フェニル}プロパン	12
5-2279	92-78-4	4'-クロロ-3-ヒドロキシ-2-ナフトアニリド(別名アゾイックCC10)	16
3-2185	14726-36-4	亜鉛=ビス(<i>N, N</i> -ジベンジルジチオカルバマート)	20
3-2216	3634-83-1	1, 3-ビス(イソシアナトメチル)ベンゼン	24
4-346	93-46-9	<i>N, N'</i> -ジ(2-ナフチル)-1, 4-フェニレンジアミン	29
5-1632	-	2-({4-[<i>N</i> -エチル- <i>N</i> -(3-スルホベンジル)アミノ]フェニル}{4-[<i>N</i> -エチル- <i>N</i> -(3-スルホベンジル)アザニウミリデン]シクロヘキサ-2, 5-ジエン-1-イリデン}メチル)ベンゼンスルホナート	37
2-1696	1892-57-5	<i>N</i> -[(エチルイミノ)メチリデン]- <i>N'</i> , <i>N'</i> -ジメチルプロパン-1, 3-ジイルジアミン	42
5-1504	3520-42-1	ナトリウム=4-[6-(<i>N, N</i> -ジエチルアミノ)-3-(<i>N, N</i> -ジエチルアザニウミリデン)-3 <i>H</i> -キサンテン-9-イル]ベンゼン-1, 3-ジスルホナート	47
4-655	281-23-2	アダマンタン	52
5-3098	20749-68-2	8, 9, 10, 11-テトラクロロ-12 <i>H</i> -イソインドロ[2, 1- <i>a</i>]ペリミジン-12-オン	64
4-605 4-1219	3407-42-9	3-(5, 5, 6-トリメチルビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2-イル)シクロヘキサノール	72
4-798	1667-10-3	4, 4'-ビス(クロロメチル)ビフェニル	86
4-1234	32388-55-9	1-(2, 6, 6, 8-テトラメチルトリシクロ[5. 3. 1. 0 ^{1, 5}]ウンデカ-8-エン-9-イル)エタン-1-オン	95

整理番号 K-1777 (2-176)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
N,N-ジメチルピコサン-1-イルアミン (21542-96-1)	事業対象年度 平成18年度	事業対象年度 平成19年度	契約 年月日
	試験期間 19.1.29~19.5.17	試験期間 19.12.19~20.3.26	試験期間
	試験装置 (標)・揮	試験装置 (標)・揮	試験装置 標・揮
	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L 汚泥 30 mg/L	被験物質 30 mg/L 汚泥 100 mg/L	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L
	本試験期間 28日間	本試験期間 28日間	本試験期間 週間
	試験結果	試験結果	試験結果
	BOD 34, 38, 36 (36)%	BOD 29, 28, 47 (35)%	間接
	GC 65, 72, 61 (66)%	GC >99, >99, 99 (>99)%	直接
	審査部会 第89回	審査部会 第89回	審査部会 年月日開催
	平成21年10月23日開催	平成21年10月23日開催	
	判定	判定	判定
	備考	備考	備考
	1.回収率 (汚泥+被験物質)系 100%	1.回収率 (汚泥+被験物質)系 100%	
	2.実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所	2.実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所	
分子式 C ₂₄ H ₅₁ N 分子量 353.67	外観 白色固体		
純度 92.5%	溶解度 (対水, その他)		
不純物 (物質名, 含有率)	対水 : 不溶 (<100mg/L)		
N,N-ジメチルピコサン : 1.87%	アセトン : 可溶		
N,N-ジメチルピコルリン : 1.00%			
N,N-ジメチルピコリン : 1.68%			
その他1%未満成分 : 2.96% (合計)			
融点 37~41°C	1-オクタノール/水分配係数		
沸点 -	安定性		
密度 -	安定		
LD50 -			
チャートの有無 (有)・無			
用途*1 中間物、洗剤、殺虫剤、殺菌剤、防汚剤、添加剤 (繊維用)			
製造及び輸入量*1 (16年度) : 2-176として1,000~10,000 t未滿			
試料 購入			
経産業公報発表年月日			
年月日			

*1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

要 約

表 題

DMDAの分解度試験（試験番号：A060551）

試験方法

「新規化学物質等に係る試験の方法について<微生物等による化学物質の分解度試験>」

（平成15年11月21日 薬食発第 1121002号，平成15・11・13製局第2号，環企発第

031121002号，最終改正：平成18年11月20日）

（試験期間）

2007年 1月29日～2007年 5月17日

（試験の構成）

No.1 : 分解活性確認系 (アニリン+汚泥+基礎培養基)
 No.2 : 汚泥基礎呼吸系 (汚泥+基礎培養基)
 No.3-5 : 被験物質の分解系- 1, 2, 3 (被験物質+汚泥+基礎培養基)
 No.6 : 水中安定性系 (被験物質+精製水)
 (被験物質濃度：100 mg/L, 汚泥濃度：30 mg/L)

（測定項目）

閉鎖系酸素消費量測定装置による生物化学的酸素消費量(BOD)の測定 (28日間)
 全有機炭素計による溶存有機炭素(DOC)の測定 (28日後)
 ガスクロマトグラフによる被験物質残留量の測定 (28日後)

測定結果(28日後の値)

測定項目	被験物質の分解系			水中安定性系	仕込み理論量
	1	2	3		
BOD, mg ^{*1}	35.1	39.0	36.7	0.3	102.5
DOC, mg ^{*1}	0.8	1.2	1.1	0.2	24.5
被験物質, mg	10.4	8.5	11.6	30.0	30.0

*1 被験物質の分解系の値は汚泥基礎呼吸系の値を差し引いて表示する

28日後の分解度

分解度	被験物質の分解系			平均値
	1	2	3	
BOD分解度, %	34	38	36	36
DOC分解度, %	水に難溶のため算出せず			
被験物質残留量からの分解度, %	65	72	61	66

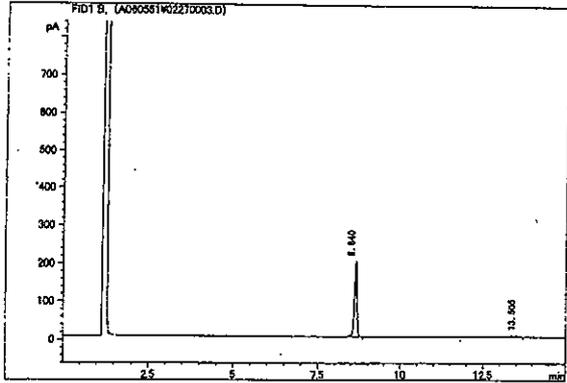
考 察

- ・28日後のBOD分解度は平均 36%，被験物質残留量からの分解度は平均 66%であったことから，被験物質は難分解性と判断される。

Figure 6 (Continued)

測定日 : 02/27/2007 4:53:45 午後 シケツクイ : 1
 シケツクイ名 : Bottle 3 N 行 No. : 203
 測定ボリューム : 1 μL 注入量 : 1 μL

Bottle 3 (sludge + test substance)



*** peak report ***

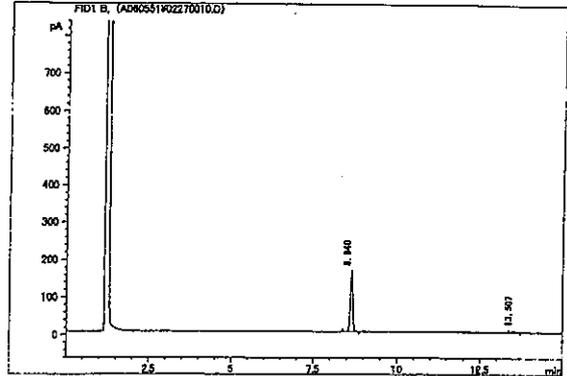
PKNO #	TIME [min]	AREA [pA*s]	HEIGHT [pA]	CONC %
1	8.640	1016.279	198.509	97.1
2	13.505	30.230	3.987	2.9
Total Peak		1046.509		

試験名: DHDA の分解度試験
 試験番号: A060551
 測定日: 2007.2.27 測定者:

*** End of Report ***

測定日 : 02/27/2007 7:36:05 午後 シケツクイ : 1
 シケツクイ名 : Bottle 4 N 行 No. : 204
 測定ボリューム : 1 μL 注入量 : 1 μL

Bottle 4 (sludge + test substance)



*** peak report ***

PKNO #	TIME [min]	AREA [pA*s]	HEIGHT [pA]	CONC %
1	8.640	830.433	162.315	97.0
2	13.507	25.085	3.519	3.0
Total Peak		855.508		

試験名: DHDA の分解度試験
 試験番号: A060551
 測定日: 2007.2.27 測定者:

*** End of Report ***

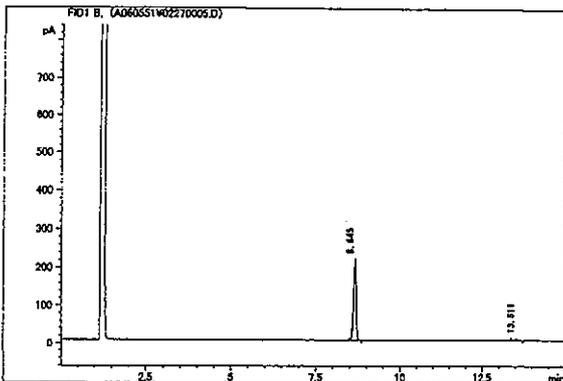
28

A060551

Figure 6 (Continued)

測定日 : 02/27/2007 5:26:09 午後 シケツクイ : 3
 シケツクイ名 : Bottle 5 N 行 No. : 205
 測定ボリューム : 1 μL 注入量 : 1 μL

Bottle 5 (sludge + test substance)



*** peak report ***

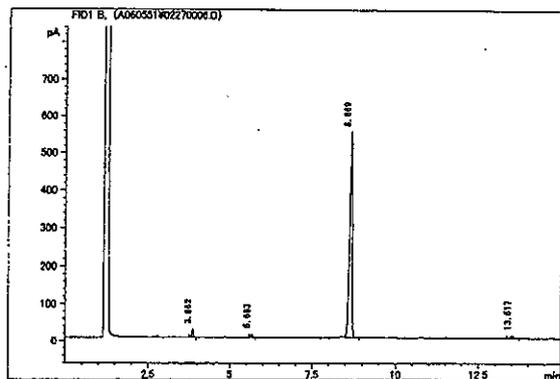
PKNO #	TIME [min]	AREA [pA*s]	HEIGHT [pA]	CONC %
1	8.645	1129.119	214.310	97.4
2	13.511	30.059	3.918	2.6
Total Peak		1159.178		

試験名: DHDA の分解度試験
 試験番号: A060551
 測定日: 2007.2.27 測定者:

*** End of Report ***

測定日 : 02/27/2007 5:42:20 午後 シケツクイ : 4
 シケツクイ名 : Bottle 6 N 行 No. : 206
 測定ボリューム : 1 μL 注入量 : 1 μL

Bottle 6 (water + test substance)



*** peak report ***

PKNO #	TIME [min]	AREA [pA*s]	HEIGHT [pA]	CONC %
1	3.882	65.838	20.985	2.1
2	5.683	31.896	8.954	1.1
3	8.669	2921.861	548.425	95.1
4	13.517	52.057	6.813	1.7
Total Peak		3072.552		

試験名: DHDA の分解度試験
 試験番号: A060551
 測定日: 2007.2.27 測定者:

*** End of Report ***

29

A060551

要 約

表 題

DMDAの分解度試験 (試験番号:A070417)

試験方法

OECD Guideline for Testing of Chemicals No.302C (1981) "Inherent Biodegradability: Modified MITI Test(II)"

(試験期間)

2007年12月19日~2008年 3月26日

(試験の構成)

- No.1 : 分解活性確認系 (アニリン+汚泥+基礎培養基)
 - No.2 : 汚泥基礎呼吸系 (汚泥+基礎培養基)
 - No.3, 4, 5 : 被験物質の分解系 - 1, 2, 3 (被験物質+汚泥+基礎培養基)
 - No.6 : 水中安定性系 (被験物質+精製水)
- (被験物質濃度: 100 mg/L, 汚泥濃度: 30 mg/L)

(測定項目)

閉鎖系酸素消費量測定装置による生物化学的酸素消費量(BOD)の測定 (28日間)
 全有機炭素計による貯存有機炭素(DOC)の測定 (28日後)
 ガスクロマトグラフによる被験物質残留量の測定 (28日後)

測定結果 (28日後の値)

測定項目	被験物質の分解系			水中安	仕込み
	1	2	3	定性系	理論量
BOD, mg/l	8.8	8.6	14.4	0.0	30.7
DOC, mg/l	0.1	0.0	0.5	0.2	7.3
被験物質, mg	<0.02	<0.02	0.13	8.9	9.0

*1 被験物質の分解系の値は汚泥基礎呼吸系の値を差し引いて表示する

28日後の分解度

分解度	被験物質の分解系			平均値
	1	2	3	
BOD分解度, %	29	28	47	35
DOC分解度, %	水に難溶のため算出せず			
被験物質残留量からの分解度, %	>99	>99	99	>99

考 察

・BOD分解度は平均 35%と被験物質は無機化しているもの、長分解性の基準 60%に達していない。ただし逆転法のBOD分解度は標準法より誤差を生じやすいと考えられることから、本試験 (逆転法) における被験物質の分解性の評価は標準法 (試験番号:A060551) の試験結果と合わせて考察する。

・標準法の結果, BOD分解度は平均 36%, 被験物質残留量からの分解度は平均 66%,

DOCは 0.8~1.2 mgであった。LC/MSによる分析で構造変化物は生成していないと推定されている。

・標準法で消失した被験物質がすべて無機化したと仮定した場合のBOD分解度は約40%と算出され、実際のBOD分解度約36%とほぼ一致することから、消失した被験物質はすべて無機化されたと推定する。

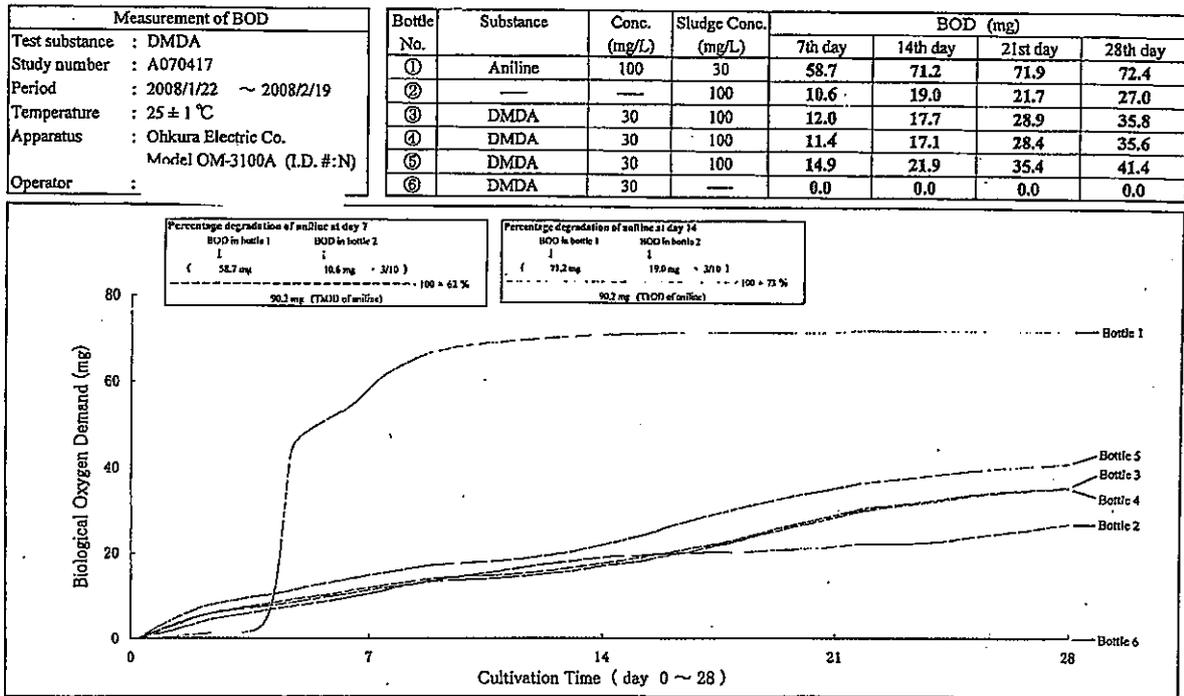
・被験物質残留量が、標準法で約3割であるのに対し、逆転法ではほぼすべて消失し、逆転法の方が被験物質の分解が進んでいると考えられる。そのため、逆転法で消失した被験物質もすべて無機化した可能性が高い。

・逆転法の被験物質残留量のクロマトグラム, DOC, そしてLC/MS測定による確認から、構造変化物は生成していないと推定された。

・なお、被験物質と類似構造であるラウリルジメチルアミンは既存化学物質安全性点検データで良分解性と公表されている。

・以上のことから、本試験で被験物質はほぼ全量が消失し、消失した構造変化物はすべて無機化したと考えられるため、被験物質は良分解性であると推定する。

Figure 5 BOD chart



27

A070417

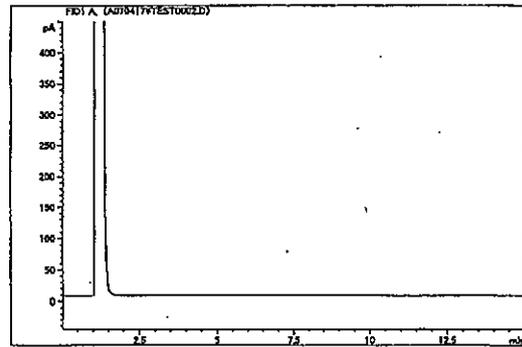
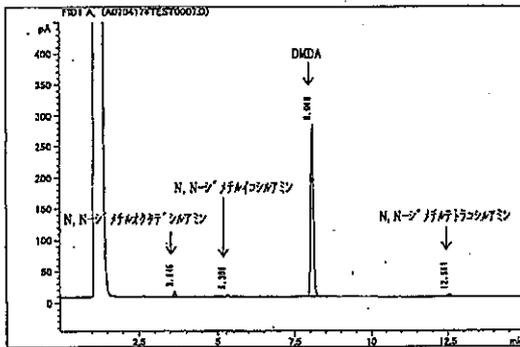
Figure 6 GC chromatograms of the test substance—Measurement of residual test substance amount

450 mg/L standard solution

Bottle 2 (blank test of sludge)

注入日 : 2008/02/19 6:35:24 午後
 シーケン番号 : 07-02
 測定ボリューム : 1 ul

注入日 : 2008/02/19 4:36:02 午後
 シーケン番号 : Bottle 2
 測定ボリューム : 1 ul



*** peak report ***

PKNO	TIME [min]	AREA [pA*s]	HEIGHT [pA]	CONC %
1	3.646	34.313	8.124	2.0
2	5.305	17.864	3.903	1.0
3	6.068	1625.286	276.319	95.3
4	12.551	27.085	3.381	1.6

Total Peak 1704.567

検体名: DMDA の分析結果
 検体番号: A070417
 測定日: 2008.2.19 測定者:

*** peak report ***

PKNO	TIME [min]	AREA [pA*s]	HEIGHT [pA]	CONC %
Total Peak				

*** End of Report ***

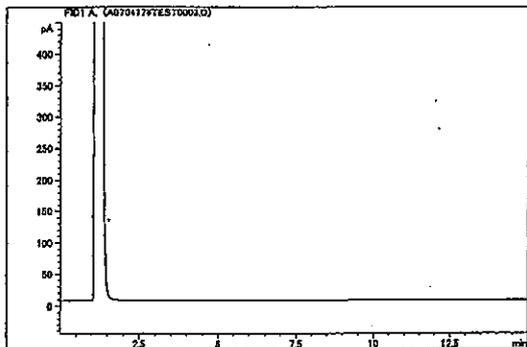
28

A070417

Figure 6 Continued

Bottle 3 (sludge + test substance)

注入日 : 2008/02/19 5:19:49 午後 シーケンス : 1
 サンプル名 : Bottle 3 試料 : N-17# 103
 測定ボリューム : 1 ul 注入量 : 1 ul



*** peak report ***

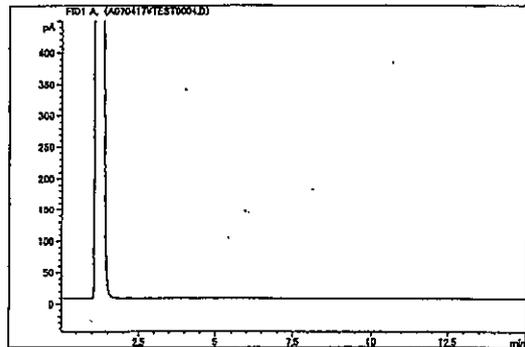
PKNO	TIME [min]	AREA [pA*s]	HEIGHT [pA]	CONC %
1	2.519	24.219	3.656	100.0
Total Peak				

試薬名: DHDA の分析試験
 試験番号: A070417
 測定日: 2008.2.19 測定者:

*** End of Report ***

Bottle 4 (sludge + test substance)

注入日 : 2008/02/19 5:35:58 午後 シーケンス : 2
 サンプル名 : Bottle 4 試料 : N-17# 104
 測定ボリューム : 1 ul 注入量 : 1 ul



*** peak report ***

PKNO	TIME [min]	AREA [pA*s]	HEIGHT [pA]	CONC %
1	2.519	24.219	3.656	100.0
Total Peak				

試薬名: DHDA の分析試験
 試験番号: A070417
 測定日: 2008.2.19 測定者:

*** End of Report ***

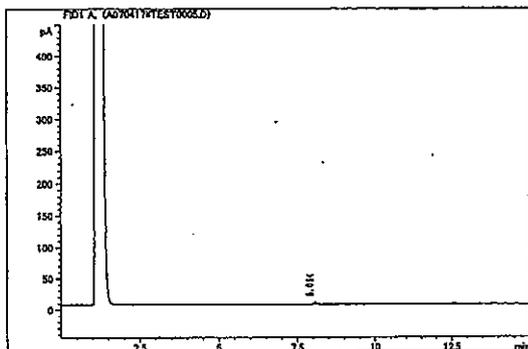
29

A070417

Figure 6 Continued

Bottle 5 (sludge + test substance)

注入日 : 2008/02/19 6:03:16 午後 シーケンス : 1
 サンプル名 : Bottle 5 試料 : N-17# 105
 測定ボリューム : 1 ul 注入量 : 1 ul



*** peak report ***

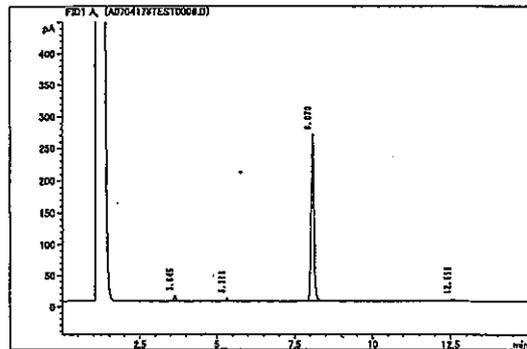
PKNO	TIME [min]	AREA [pA*s]	HEIGHT [pA]	CONC %
1	8.054	24.219	3.656	100.0
Total Peak				

試薬名: DHDA の分析試験
 試験番号: A070417
 測定日: 2008.2.19 測定者:

*** End of Report ***

Bottle 6 (water + test substance)

注入日 : 2008/02/19 6:19:19 午後 シーケンス : 2
 サンプル名 : Bottle 6 試料 : N-17# 106
 測定ボリューム : 1 ul 注入量 : 1 ul



*** peak report ***

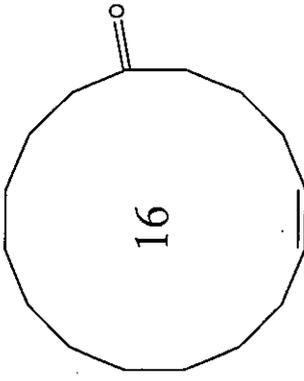
PKNO	TIME [min]	AREA [pA*s]	HEIGHT [pA]	CONC %
1	3.645	33.570	7.800	2.0
2	5.311	17.558	3.765	1.1
3	8.070	1602.532	262.042	95.4
4	12.559	25.764	3.036	1.5
Total Peak				

試薬名: DHDA の分析試験
 試験番号: A070417
 測定日: 2008.2.19 測定者:

*** End of Report ***

30

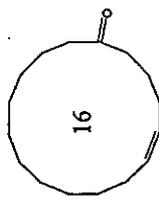
A070417

整理番号 3-2378 (K-1838)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
シクロヘキサデカ-5-エン-1-オン (37609-25-9)	事業対象年度 平成20年度	事業対象年度 平成 年度	契約 年 月 日
	試験期間 H21.1.13~H21.3.12	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標)・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状	試験濃度	試験濃度	試験濃度
 <p>16</p> <p>分子式 C₁₆H₂₈O 分子量 236.39</p>	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
純度 99.5%	本試験期間 28日間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
不純物(物質名,含有率)	試験結果	試験結果	試験結果
外観 無色透明液体	間接	間接	間接
溶解度(対水,その他)	BOD 66% (71, 56, 71)		
融点 -	HPLC 92% (100, 81, 96)		
沸点 -			
密度 -			
LD50 -			
チャートの有無 (有)・無	審査部会 第89回	審査部会 第 回	審査部会 第 回
用途 -	平成21年10月23日開催	年 月 日開催	年 月 日開催
製造及び輸入量(年) -	判定案 良分解性	判定	判定
試料 東京化成工業株式会社	備考	備考	備考
経済産業公報発表年月日	1.回収率 (汚泥+被験物質)系 99%		
	2.実施機関 富士フイルム株式会社		

[様式1]

分解度試験報告書

1. 一般的事項

新規化学物質等の名称 (IUPAC 命名法による)	5-シクロロヘキサチゼン-1-オン		
別名	—		
CAS番号	37609-25-9		
構造式又は示性式 (いずれも不明な場合は、 その製法の概要)			
分子式	C ₆ H ₁₀ O		
試験に供した新規化学物質の純度(%)	99.5%		
試験に供した新規化学物質のロット番号	AGN01		
不純物の名称及び含有率(%)	不明 0.5%		
蒸気圧	データなし		
対水溶解度	1.0mg/L未満		
1-オクタノール/水分配係数	データなし		
融点	データなし		
沸点	—		
常温における性状	無色透明液体		
安定性	室温安定		
溶媒に対する溶解度等	溶媒	溶解度	溶媒中の安定性
	アセトニトリル	1.0×10 ⁻⁴ mg/L以上	安定

2. 試験方法

試験方法	化審法ガイドラインおよびOECD Guideline for Testing of Chemicals 301C		
暴露期間(日)	28日		
汚泥の種類	標準活性汚泥 平成21年1月15日受け入れ(ロットNo.S-141)		
被験物質濃度	100mg/L		
汚泥の懸濁物質濃度	30mg/L		
pH調整	有・無		

3. 試験結果

(1) BODチャート

*別添としても送付

Fig. 1 Chart of BOD 参照

(2) BOD測定結果

試験容器	測定日					仕込み理論量
	7日目	14日目	21日目	28日目		
[水+被験物質]系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
[汚泥+被験物質]系	No.1	20.2	36.9	48.5	69.0	
	No.2	16.9	33.7	43.7	55.7	
	No.3	20.4	40.5	58.3	69.5	
[汚泥+アニリン]系	54.5	64.4	66.4	68.3		
汚泥ブランク系	1.5	2.1	3.0	4.2		

(3) 測定結果 (28日後の値)

測定項目	[汚泥+被験物質]系				仕込み理論量
	No.1	No.2	No.3	[水+被験物質]系	
BOD ^{*)}	mg	64.8	51.5	65.3	0.0
DOC ^{**)}	mg	0.777	0.537	0.669	0.393
被験物質残留量及び残留率(HPLC)	mg	0	5.66	1.16	30.0
	%	0	19	4	100

*1: [汚泥+被験物質]系は汚泥ブランク系の値を差し引いて表示した。(負の値の場合は0.0とした。)

*2: 水溶解度が1mg/L未満のため参考値。

(4) 分解度

項目	[汚泥+被験物質]系			平均値
	No.1	No.2	No.3	
BOD分解度	%	71	56	71
DOC分解度 ^{*)}	%	—	—	—
被験物質分解度 ^{*)}	%	100	81	96

*1: 水溶解度が1mg/L未満のため算出なし。

*2: HPLC測定結果から下式により算出した。

([水+被験物質]系残留量 - [汚泥+被験物質]系残留量) / ([水+被験物質]系残留量) × 100

4. 回収率 (平均値)

[水+被験物質]系回収率	%	99
[汚泥+被験物質]系回収率	%	99

5. 考察

*可能範囲内、本試験結果の再現性(本被験物質の生分解性について)を記載してください。
 *特に生分解性に関与した場合には物質収率等について記載してください。
 28日間の分解度試験の結果、分解度は、BOD測定において平均66%、HPLC測定において平均92%であった。
 HPLCによる測定の際、被験物質位置に汚泥ブランク由来のピークが重なったため、本試験においては汚泥ブランク値を差し引いて計算した。翌日、HPLC条件を変更し被験物質ピークと汚泥ブランク由来ピークを分離する条件で測定した結果、被験物質残存率および分解度が、ほぼ同様の結果であることを確認した。

単位：(%)

試料No.	汚泥系・被験物質残存率					汚泥系・HPLC分解度		
	1	2	3	1	2	3	平均	
本試験における汚泥ブランク差し引きによる結果	0	19	4	100	81	96	92	
汚泥ブランクピーク分離条件による結果	2	19	5	98	81	95	91	

以上の結果より、被験物質は微生物等により分解されるが、完全分解には至らないと考えられる。

6. その他

試験実施施設	富士フイルム株式会社 CSR推進部 環境・品質マネジメント部 安全性評価センター
所在地	神奈川県南足柄市中沼210 電話 0465 (73) 7440 FAX 0465 (73) 7975
試験責任者	職氏名 _____
試験番号	経験年数 1.5年
試験期間	B-005/08002 平成21年1月13日 から 平成21年3月12日 まで

作成責任者	所属 富士フイルム株式会社 CSR推進部 環境・品質マネジメント部 安全性評価センター
氏名	氏名 _____

Study No. B-005/08002 (Test item J-08-027)

Cultivating conditions:

Concentration
 Test item 100 (mg/L)
 Reference item (aniline) 100 (mg/L)
 Activated sludge 30 (mg/L)
 Temperature 25 ± 1 °C
 Duration 28 days (Jan.20 - Feb.17,2009)

Note:

Vessel No.	Sample Description	BOD (mg)				
		7th day	14th day	21st day	28th day	
[1]	Sludge + test item	20.2	36.9	48.5	69.0	
[2]	Sludge + test item	16.9	33.7	43.7	55.7	
[3]	Sludge + test item	20.4	40.5	58.3	69.5	
[4]	Water + test item	0.0	0.0	0.0	0.0	
[5]	Sludge + aniline	54.5	64.4	66.4	68.3	
[6]	Control blank [B]	1.5	2.1	3.0	4.2	

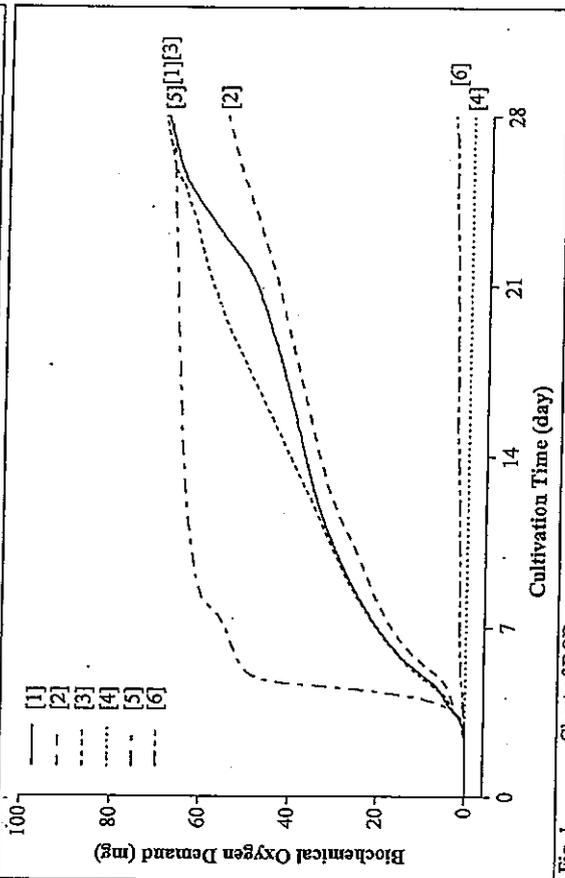


Fig.1 Chart of BOD.

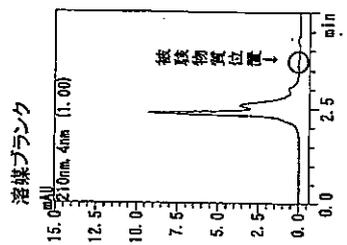
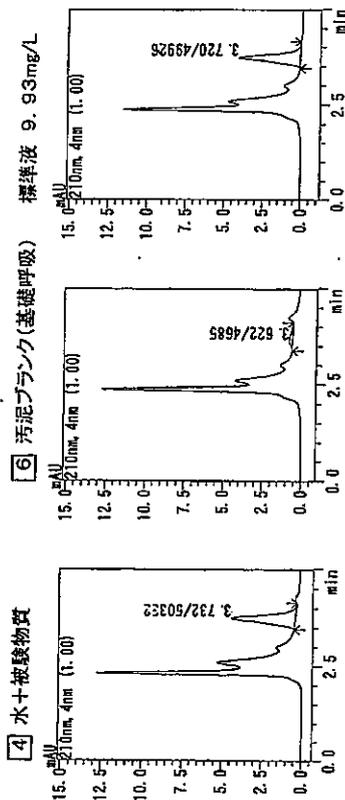
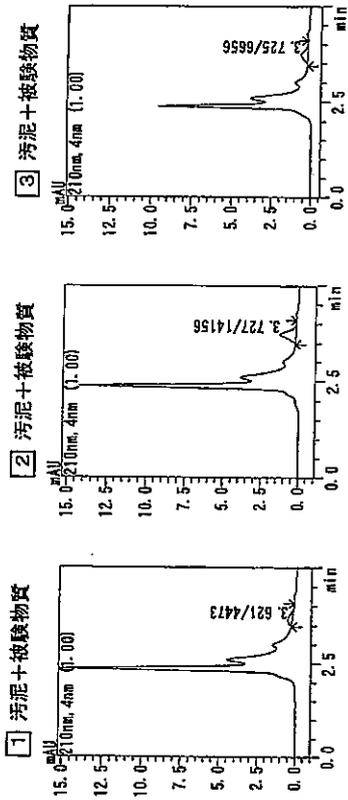
Name _____

Fig. 4

培養終了後のHPLCチャート

被験物質No.: J-08-027
バッチNo. : AGM01

測定日: H21. 2. 17
測定者: 7

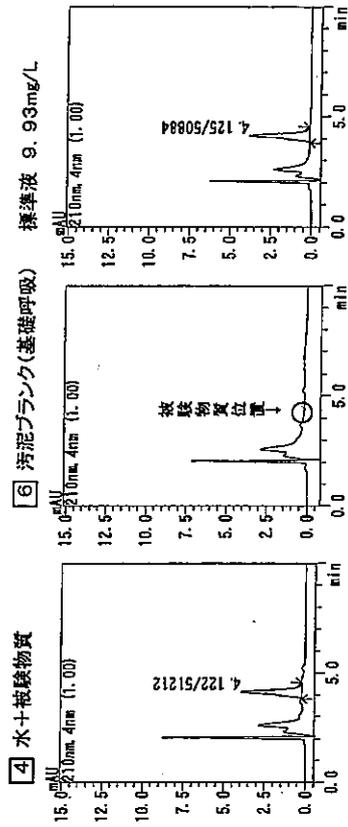
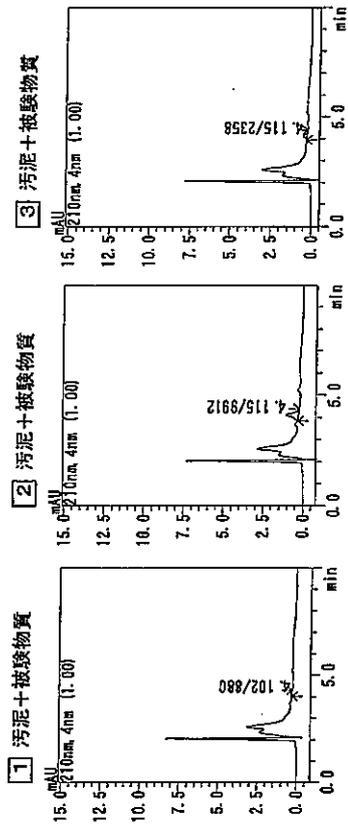


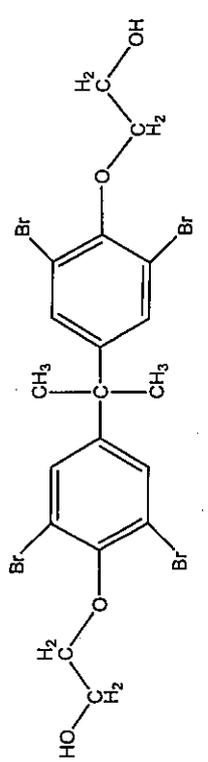
Reference 3

培養終了後のHPLCチャート

被験物質No.: J-08-027
バッチNo. : AGM01
溶媒液 : Aポンプ;水
 : Bポンプ;アセトニトリル
A/B=3/97

測定日: H21. 2. 18
測定者: 1-1



整理番号 4-218 (K-369)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
2, 2-ビス(3, 5-ジプロモ-4-(2-ヒドロキシエトキシ)フェニル)プロパン CAS:4162-45-2	事業対象年度 平成 年度 試験期間 H21.1.15~H21.3.12 試験装置 (標)・揮	事業対象年度 平成 年度 試験期間 ~ 試験装置 標・揮	契約 年月日 試験期間 ~ 試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L 汚泥 30 mg/L 本試験期間 28日間	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L 本試験期間 週間	被験物質 mg/L 汚泥 mg/L 本試験期間 週間
分子式 C ₁₉ H ₂₀ Br ₄ O ₄ 分子量 631.98	試験結果 間接 BOD 3% (0, 4, 5) 直接 HPLC 0% (0, 0, 0)	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接
純度 96.9% 外観 白色粉末	審査部会 第89回 平成21年10月23日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
不純物(物質名, 含有率) - 溶解度(対水, その他) 水:0.776mg/L アセトニトリル: ≥1.0×10 ⁴ mg/L	判定案 難分解性	判定 備考	判定 備考
融点 107°C	備考 1. 回収率 (汚泥+被験物質)系 99% 2. 実施機関 富士フイルム株式会社	備考	備考
沸点 -			
密度 1.8			
LD50 -			
チャートの有無 (有)・無			
用途 中間物、添加剤(合成樹脂用)等			
製造及び輸入量(H16年度): 4-218として1,000~10,000t未滿			
試料 東京化成工業株式会社			
経済産業公報発表年月日 月 日			